

初編
上

遠
1164
24



特
へ13
1164
24

固

木
斐

小
本
卯

海野
信盛
蔵書

金昆羅 續藤栗毛 初編序

若年の頃 檣陽浪速子 ありし時 一と能

高知子 所用ありて 下里 船の序 小象 既

小なる者 諸し 善通寺 弥谷を 遊歴し

し 秀異 勝景の 地 多くし 感 情

小想像 ところ 小堀 次 されや 以 録 筆 乞

八編 子 筆と 止る こと 小 筆 中 小



木

予が金口先生信仰の事を知りて故にせめて
其能の由を編むに投ず。予彼地理
行程のゆゑあり、知得しむる土人の通言
んふの風俗を疎らぬを、國粹をぬるも、五
一のせきを破れぬとして、竟に外二巻を編
出せしむるに於て、其律又曰、諸ふ毒、啗人
りの血を心を露と厭ふもの、その清なる

と云ふて、其の毒をふらざるが如く、結業
毛も亦このまじふ律しよめて、八編とを限至
一篇とし、其の事と續録業を初編と、其の
ものしるべき彼諸君が、東都の律、其の
まを編、あつて、予曰く、八編の細の候、小
遺を、し、其の事と限至、其の事と限至、
其の事と限至、其の事と限至、其の事と限至、
其の事と限至、其の事と限至、其の事と限至、

雨士伊勢をまきまきしる里花河大阪のりて
 その解る石まきまきの龍改蛇尾の多作小
 しる多視者不収のまきまきの色し原のま
 我作のかまきまきの海教と申出せまきの
 他小例まきまきの撰者のまきまきのまきまき
 まきまきと曲てもの小集まきまきの又海矢のまきまき
 まきまきをく海まきまきの撰むるまきまきのみまきまき
 まきまき

ばく種まきまきの記行をまきまきして流小後まきまきの
 標額まきまきをわくまきまきのまきまきのまきまきのまきまき
 カまきまきのまきまきのまきまきのまきまきのまきまきのまきまき
 まきまきのまきまきのまきまきのまきまきのまきまきのまきまき
 見ぬるまきまきの面目まきまきのまきまきのまきまきのまきまき

文化
 庚午春

東都逸民
 十返舎一九誌(貞)



讀列金崑在鷓足部
 山形似象頭故名象頭
 山相傳當山天狗名金
 崑羅坊所之聖殿多
 所崇亦甚嚴云

墨亭
 月唐画

讀 金毘羅船

此の船は長門のふたありて
 舟道航城より無船のこゝに記せし
 之も金毘羅船のゆゑに友のふ船を大川舟西横場
 長崎西川口等よりふ足さうりて此船の船の下次
 舟子金毘羅船と云一切祈願の人を乗せし
 神酒を奉るとして此船の酒をば海行す
 浪さくたして長崎山つらつら舟中せしこれと
 拾ふもの神酒の献けししては酒と呑珍さふまに
 せん美味ちうりて酒の故清ふゆきりはれら
 故ちう遊しされもあはれてはさふいさへみま



此の酒をば奉るとしては
 蟹 五日 当山と金指の人を乗せし川奥蒜
 三十日 海糠 三日 日づきも喰ふぞうりて
 舟中より思ふありては昔より金
 毘羅船の船にあはちありしは
 珍味なり



廣前のかくのぬくの繪馬多くありて
 舟海海の船以九死一生の奇難
 のとれ船吉と稱ひ此は神子祈願言さる小免ありて
 舟にありて舟の船吉と奉りて末代舟身とて
 舟の志ありて

存の老らひしきも不用しきと不修りしと下も金は性
 多清の人の為し則ち祀一^{おえ}年ぬれくも編と大取
 川口を九竜も船中のもをいしりしりも
 山およひ善通寺又地蔵寺の跡公寺も経て多後
 津よりた急の家もてゆる秋れおさるるも除
 備前牛宮系もつて播品も助陽ののちも即
 二編のそととてつづるものあり。

三十一日 三十一日 三十一日
 三十一日 三十一日 三十一日
 三十一日 三十一日 三十一日

金毘羅 諸續 膝栗毛 初編

東武

十巻 書 一九 著



抑嶺岐園象頭山金毘羅大権現と号し一巻あり。

靈驗ありし事ありて。祭神未詳或云三輪大明神 ^{おのて}

此月の幸ふ是を信念拜仰せしむるはく。唐人も

降神觀と云ふ類とてまじし。倭漢普通神力

妙用のおん神とされば諸職の業も長さんと。裸糸の

えよ入らばよ。納りぬ由ありしとみそをり。碎倒れの



大坂
通
船
出
の
図



濁らして吾々とありまとも。智めゆふど。或ハ癒え
のしごろ後、これ。儒伴のしきりとも。ふれと怒るゆふど。
ゆふ私中の奇難すぬぐれ。報謝みとて。雷がを切り
捧ぐらゆもささる。と捨てゆふど。それどその地をたどりて。
神野と羨るゆ。矢よりゆ早く。後炮即ちゆもとささる。
ゆあり。志ゆぬ火のほくし。雲井路の奥ゆありも。海
の艱苦灰ゆのたて。糸指帰伏ゆゆめの後どとゆ。
ゆ糸指郎を聞ゆ。ゆ八るゆめゆ。伊勢糸の刷をゆゆ。

浪花長町ゆあり。蓮苗し既ゆ及ゆの用定ゆ多ゆ。
相宿ゆ野別ゆの人ゆ。名ハ大。ゆり合せゆが。金毘羅
糸指ゆありゆ。とそ一人旅なれば。ゆゆゆとて八をも
同道見るとゆ。ゆありゆ。友人まゆゆゆゆのゆとゆ。ゆひまゆ。
ゆ令とゆ。ゆけとゆ。ゆゆゆゆゆの人ゆ。ゆゆ。ゆゆ。
ゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。
ゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。
ゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。
ゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。
ゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。
ゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。

と見つけて野良の人ハアらごとめのサアひまをいす。え
 ひらきまきりや船ハエまのー「^{なか}」まがやアふか^{みち}んご
 ハアおるまらうか。その^ヒれどよのふひをかきとへい。ア
 ともハアえびまはしるのぶが。あならんサアいらら
 ほんごうまきん^{カキ}ハアおいらら格ごま^ミ三人
 同志でござる^シ。ハアおひよりま^チ船賃雑用とも拾八匁
 づでござるまをさしな^シめんとらん。ソリヤ。だ。うんえ
 みのー。らくとまけら^シ。も^シハヤ^シ定連限でござる

かしこをさる。さものいもまら^シ。アうら^シめんと^シだ。ら
 りんせぬま^シる。船中とらん^シの。日利の才^シで。何日^シか
 中^シもま^シえ^シま^シの^シま^シ。それ^シハア^シアア^シてお^シげ^シら^シる^シ。ほ
 し^シら^シハア^シの^シせ^シら^シま^シの^シー^シハ^シア^シお^シめ^シ定^シ連^シ限^シと^シら^シハ^シ
 かし^シの^シえ^シめ^シの^シあ^シど^シえ^シび^シら^シま^シせん^シご^シア^シの^シせ^シ
^ト打^シぐ^シら^シう^シを^シう^シの^シシ^シら^シま^シえ^シと
 かし^シの^シえ^シめ^シの^シあ^シど^シえ^シび^シら^シま^シせん^シご^シア^シの^シせ^シ
 かし^シの^シえ^シめ^シの^シあ^シど^シえ^シび^シら^シま^シせん^シご^シア^シの^シせ^シ
 かし^シの^シえ^シめ^シの^シあ^シど^シえ^シび^シら^シま^シせん^シご^シア^シの^シせ^シ
 かし^シの^シえ^シめ^シの^シあ^シど^シえ^シび^シら^シま^シせん^シご^シア^シの^シせ^シ
 かし^シの^シえ^シめ^シの^シあ^シど^シえ^シび^シら^シま^シせん^シご^シア^シの^シせ^シ

ろせりらん。まよをふきゆると。かの子ども。へんちん。あれたの。な。い。の。
め。の。よ。ま。と。び。り。れ。と。あ。ひ。や。の。見。せ。た。た。う。う。ら。う。て。ち。よ。わ。ぬ。ら。う。び。と。さ。な。人。ま。あ。く。う。ら。れ。て。い。ま。と。お。た。ん。と。
そのふねよのりうつる。し。サ。ア。く。ア。う。ま。う。い。め。の。あ。じ。

まてどや。あつらうく。い。ま。あ。い。う。ん。う。の。な。ま。ま。う。う。ま。え

らうく。おまへんくぶあな。あ。ん。た。の。う。く。ま。ま。な。あ。

らんサあつくの子ヤ。コレもこの祝が。ち。ど。の。あ。う。と。そ。り。

ら。の。祝。入。つ。て。お。い。ん。せ。コ。リ。ヤ。ア。あ。り。さ。う。ま。ま。ほ。

あ。い。ま。ち。あ。い。は。い。ト。人。を。ま。う。り。を。ひ。う。へ。さ。ら。う。エ。レ。ハ。イ。ま。ま。ま。ま。ま。

ゆめが。さ。さ。る。の。あ。い。ま。あ。い。ま。あ。い。ま。あ。い。ま。あ。い。ま。あ。い。ま。あ。い。ま。

小ヤア。あ。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。

あ。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。

あ。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。

あ。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。

あ。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。

あ。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。

あ。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。

あ。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。

て月々なる子ナニ^{ハク}いざうのぞいて見よト こゝろをわけて見よ
人なきやうにせよ

さうさめりやをよ
かゝるとよましく 雨のころい。雨があつた。あつた。あつた。あつた。

うでまるがうかが。こぬる雨のあつた。あつた。あつた。あつた。

りねんさめうく はた せんぼうを飛つてせ。今やぞく星 ハカ

さうけでぬるのめと。ナニあるめのうト はたつてをわけて
あけてのぞく

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

ナニあるのめと。穴と見えさ。 ホニニ ナア。それで由あつた。

が教よ。かゝるとのあつた。 はた それを。ノレ風上。小便 あつた

わつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

えれ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

ト 大なるあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

ト いあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

ト あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

ト あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

ト あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

ト あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

荒き

何ちふえとかりますいそせ子やあつげがうくえん

あぢあぢ

かみフホニハひなるふく川江戸丸の而掛が

ほく

げがが子ヤイヤちやんごころいハ合羽がりら

かみ

ドレトト子由さうがサヒさぶらゆめよあをめくと

かき

りさよ。ろくろをよへりねくらんよさまら。いあわす

男

トト大さよふあはり。合羽をひつさ。あをさうらめ。そのよとて

ま

まよハのつぎしつろあはりねあけりうつてあるのり合

まなくろくくともらんよはれりあおろこまらまらまら

火のやうよあうううううううう

合羽。焼きま入り

い。首。船中。つよく。大。と。ひと。の。り。り。り。

船のなを。本。味。川。日。の。は。夜。由。子。の。刻。耳。よ。る。り。ぬ。

さ。風。待。と。夜。明。か。の。糸。出。えん。と。船。改。水。子。由。志。づ。

い。息。い。て。い。よ。船。中。ひ。そ。ま。り。あ。の。が。さ。ま。く。め。さ。

あ。み。て。居。眼。る。も。あ。り。あ。る。大。肘。ま。ら。あ。る。荷。物。包。か。う。の。

か。の。ふ。改。め。さ。を。打。り。つ。る。ち。寅。の。刻。あ。り。や。の。ん。

と。お。り。い。船。改。あ。子。ど。の。俄。と。騒。ま。て。帆。柱。あ。ら。ま。

帆細ひきあげらるごとく。今や仲よき出人とさるやうに
船中より多く目をさす。あるがごとく顔さす。手あ
はくひて。象取山の如くあつむ。跡は北八由徑
遠路して

たゞつとつとつ信の身ゆらあそく
ちいさうぬこのらんびとの船
船出ととぶき。彼をうらめさうらちをゆく由
沖よをり出し。船取がヨウソウの夢いそぎし。追風

小帆くけく矢を射るごとく。ちや目の出るはを。其厚の
仲あぞいなり。大坂より船とさるまじし。さふて四方をえんごせは。
東のくふはだ。甲山摩耶山丹生の山。ちやうのが峯
ふんと同前よあがまらり

仙人のまじへんあつとど霞より
吐いけり。さうねくつりひがまね
又陸地あつ西の宮。比叡神戸。須たるんどのふ浦く
黒くえんごせられて。眺すの景久いんをりけし。和田の

播磨
舞子湾

松ハ

扇のハツク

似て

ユウシ子の

いふ

妻の
長保さ

柴舟庵
一 鮎友



くろくろ茶の

海路

みまの

目

さな

さ

妻乃

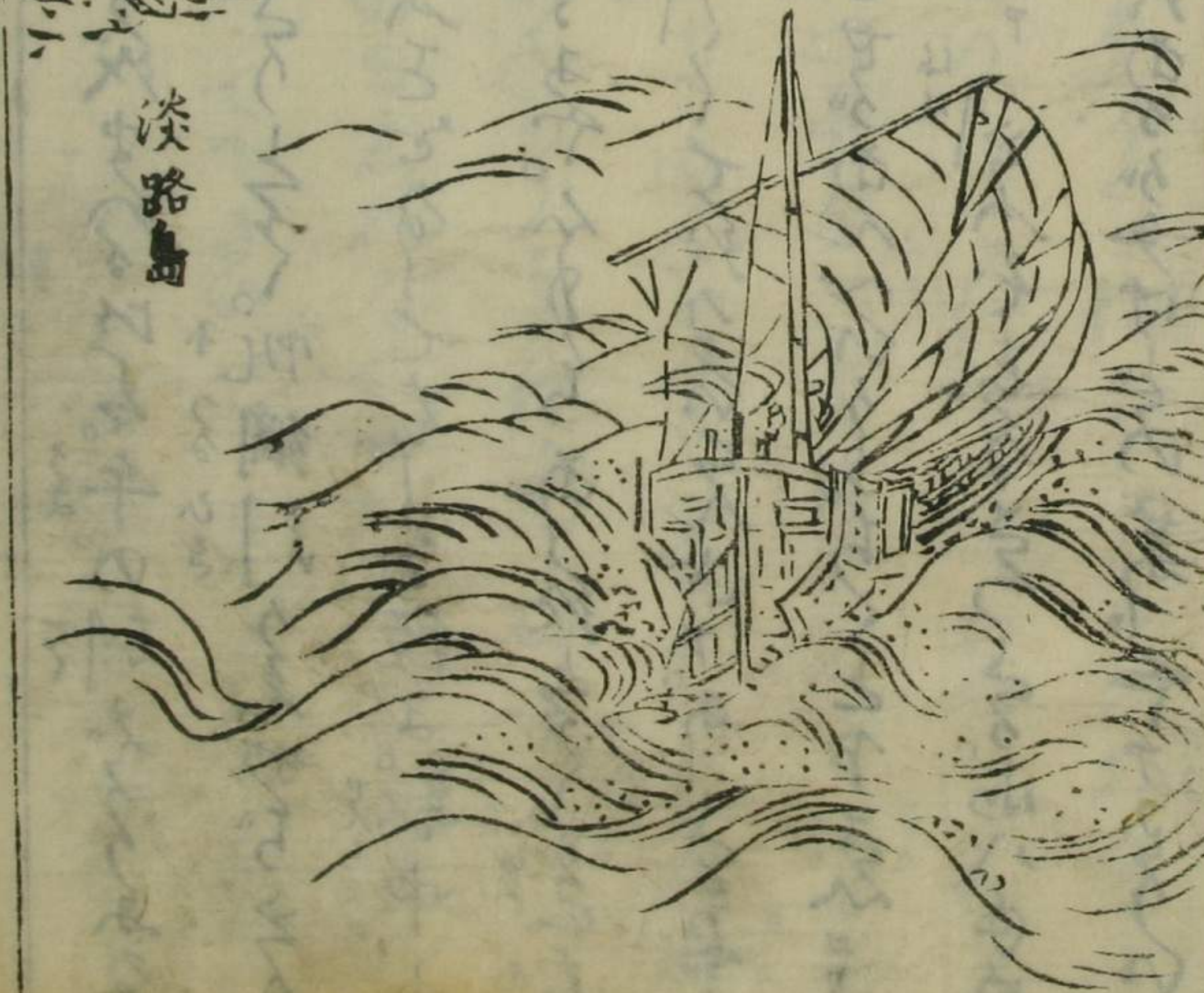
系

夕

初音樓
一 短



淡路島



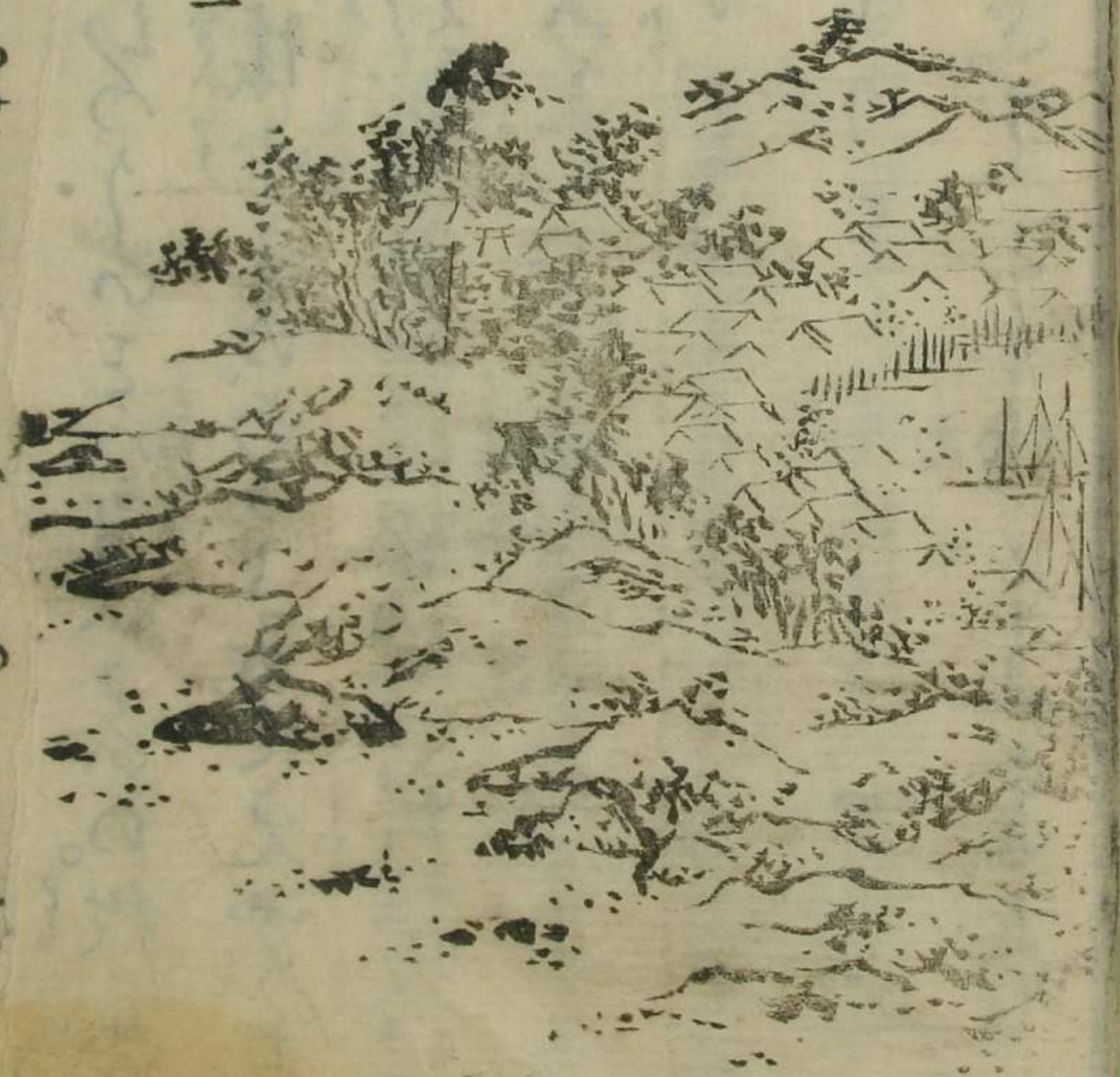
山^{ヤマ}の^ノく^とと^と碓^{ツツミ}と^とり^とる^と残^{ノコ}ま^るの^の以^もて^て午^ヌの^の刻^{とき}た^らう^りふ^るん。
け^と死^し俄^とに^に風^{かぜ}く^らう^らう^らと^とき^き。帆^ホ綱^{つな}引^ひく^え。お^らら^らら^ら
る^ら。ま^ま切^きを^をと^とり^りと^とを^をり^りて^てち^ちり^りる^る程^{ほど}。船^{せん}中^{ちゆう}小^{せう}の
冊^ふ列^{れつ}の^の人^{ひと}船^{ふね}は^は解^とけ^るさ^まや^や。ふ^らら^らら^らあ^あ死^しと^とき^き。色^{いろ}は^は青^{あお}
ざ^めち^ちら^らち^ち死^しして^{して}ア^アく^くて^て死^しか^かい^いん^んど^どア^ア。あ^あら^らら^らア^ア
あ^あん^んで^でも^も茶^{ちや}サ^サア^ア持^{もち}合^あせ^せか^かあ^あん^んぶ^ぶい^いう^う。ち^ちく^くと^と下^げさ^さん^んコ^コリ^リヤ^ヤ
ハ^ハア^アお^おと^とぐ^ぐん^んど^どア^アハ^ハア^ア。あ^あん^んを^をあ^あん^んさ^さら^らう^う。お^おハ^ハお^おめ^め
く^くさ^さら^らお^おめ^めく^くア^アの^のあ^あめ^めか^かあ^あけ^けど^どの^の茶^{ちや}。ア^アア^アら^らい^いく

ア^アん^んど^どと^とさ^さり^りム^ムモ^モあ^あん^んが^がア^ア。あ^あん^んど^どく^くさ^さら^らハ^ハ持^{もち}る^るア^アん^ん
ク^クア^アい^いあ^あん^んぜ^ぜア^アん^んど^どの^のコ^コリ^リヤ^ヤ。船^{ふね}は^は解^とけ^るお^おら^らら^らど^ども^もあ^あん
さ^さら^らる^るア^ア茶^{ちや}ど^どが^がよ^よく^くど^どぶ^ぶる^るア^アん^んど^どく^くさ^さら^らね^ねく^くと^とう^うて^て何^{なに}と^とい^い
茶^{ちや}ど^どね^ねア^アア^ア。け^けさ^さら^らア^アは^はん^んさ^さく^くぶ^ぶい^いと^とう^うて^て大^{だい}坂^{さか}で
ナ^ナア^ア。う^うつ^つて^てさ^さあ^あつ^つて^てあ^あん^んど^どく^くさ^さら^らう^うさ^さが^がね^ねど^どア^アア^ア。コ^コリ^リヤ^ヤハ^ハア^ア。
ら^らら^らア^ア。ら^らら^らち^ちぬ^ぬべ^べの^のも^もあ^あれ^れる^るい^い。せ^せう^うら^らら^らら^らく^くさ^さら^らど^どあ^あ
さ^さら^らの^のあ^あん^んど^どが^がう^うつ^つて^て下^げさ^さの^のア^ア。あ^あん^んど^どか^かあ^あん^んど^どく^くさ^さら^らひ^ひ付^け
る^るの^の。ソ^ソレ^レこ^こら^らく^くア^アん^んど^どく^くさ^さら^らら^らら^らん^んど^どア^ア。あ^あん^んど^どく^くさ^さら^らら^らら^ら

あつたをうらむとこのあひのよさのいかにあつたひひけり
やとどろつてふとどろつてふとどろつてふとどろつてふとどろつてふ

榮邑堂
色二

短子
朝心
いさ村



播磨國室
風景

帆は
喜多川
哥磨
美沙



のるんごうや。ハテむろりうらまの。往來の母

形があらやある。懐中りの。あましあてえんせ

あとのろろぞいな。あましあてえんせ

コリヤア。あまのせきくあまのせんごう

うけしあまのりご。あまのりご。あまのりご

あまのりご。あまのりご。あまのりご

コリヤア。あまのりご。あまのりご

あまのりご。あまのりご。あまのりご

あまのりご。あまのりご。あまのりご

あまのりご。あまのりご。あまのりご

あまのりご。あまのりご。あまのりご

あまのりご。あまのりご。あまのりご

あまのりご。あまのりご。あまのりご

是る事、よむいとく、かゝる事、
 う。見る事、やうあやうと、おのて、
 う。あつて、おひよえん、
 ころゝ、おめ、おひよ、
 であつて、さん、
 おのり、それ、
 さ、おとづね、
 かある、それが、

京都 堂庵菴菊里



そのひなめでいふに、今まての叶^み寺^{てら}の檀^{だん}那^なハ
のころに速^{すみ}者^{もの}で、それなく長^{なが}命^{いのち}ア、あよとふるの、不^ふ
仕^し合^あひをらちやとおひあつとが、それくも檀^{だん}方^{かた}を
天^{てん}死^しして、寺^{てら}繁^{はん}昌^{しょう}の瑞^{すい}お、おせうもよぶとららぐま
おせう。後^{のち}みて酒^{さけ}あどあげうしようひな、^はん
ありがごみござりやぶが。吾^{われ}んいつと地^ちよや、うらうらぶが
あううと也。後^{のち}つて葬^{さう}れよらのまお糸^{いと}のうやせう
イヤワリヤ。早^{はや}速^{すみ}なとらちやが、地^ちよが、誰^{たれ}どのよ

ハ、うらうらぶとらちやぶと、^はん
よひな、^はん
今^{いま}毘^び羅^ら系^{けい}踏^{たつ}よまのりやと、^はん
てとねやうとらち。それでお寺^{てら}か、このまの、^はん
やと、^はん
よらのま、^はん
な、^はん
うらな、^はん
うらな、^はん

中やを^傍あらんららちや。そやいふな花よや。せらうく
うれうらさりのと^{はれ}ソリヤアりのおちうらおとくござり
まよ。おまのどくる^{ハバ}抱^キるのわうらうら。おちうら^{おと}ござり
とらふゆめづらうら。サア体次さんあをねくかござりやと
さのてんてん^トこの寺とよちりてうらうらとえまうら。ある^{ゆふ}地とえ
らん^どゆめまゆめあれたとていふところよ六十あやうの十せがれと
る傍一人ソラうよまごらうわいととらへてやううんぶらうとらうら
^{はれ}めんるせくおせうとまへらとのおねがひがござりやと。
とびのりのでござりやとが。一人^{せん}船中で^び病死^しうら

やう。そふそあるや。おとむらひるらうてくござりやと
^{ハア}ソクヤ^ハ雅^系であらうとやある。異^い傍^はよるら^ら島^島
寺の^い任^に職^しで^ござ^る。雨^あ知^らくまうと。あうら^らから^ら葬^まれ
ゆらうく^ね直^ん辰^し以^い背^がで^ござ^る。経^{きやう}より^む傍^はゆ^めの^うん
のさよめが。それだけよ^せ施^り物^{ぶつ}由^よ余^あ業^{ごう}よ^い出^でま^すと。又
りんどう^{りん}こ^こよ^よふ。イヤあ^ら吉^{きち}か^よいの。或^{ある}ハ^ハ歌^{うた}らう
三^{さん}の^のや^やら^らい^いが^が夢^{ゆめ}を^をて^てあ^あま^まし^しバ。是^こハ^ハ格^{かく}別^{べつ}
言^{こと}を^をて^てご^ござ^るが。何^{なに}ゆ^ゆえ^えや^やう^うな^なお^お好^{この}ハ^ハご^ござ^るね^ねる^る。

うそ
あつ
うそ

いふうらなむハイのりまはまはうみりやせう。ハ
浦次えい^{はげ}りがまもようりーくおのそややと。

いふうらなむりりてさんトやせう ト^ハのりまはまはうみりやせう。

いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。ハ
いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。

いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。ハ
いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。

いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。ハ
いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。

いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。ハ
いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。

いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。ハ
いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。

いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。ハ
いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。

いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。ハ
いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。

いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。ハ
いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。

いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。ハ
いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。

いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。ハ
いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。

いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。ハ
いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。

いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。ハ
いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。

いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。ハ
いふうらなむらうのり口のそまはまはうみりやせう。



とおひ入て。さもつぶさん〜このやあろぞいな。ハ
んるら。ららちかあ〜つゝも。犬めよやな。よ
いめくま〜
れハトキヤア〜ト
ねんぞろよこれと云々〜ありりけ色バあとのとらりう〜
あひら〜
死ぬめのい〜

死ぬめのい 焚 走るれや

船よ追風の富貴自在多れ
か〜直〜既よ夜〜
とも船中を〜
不浄〜の祈禱を〜
吼〜
の大多婦の沖よ至り〜
小豆崎のんえ〜

系毛の突入由〜
小豆崎

とらふとらふびよねるがとせむる

それより牛窓前とりぬあそりをかくるどい
ハ島の夫くりか嶽南のくまは深く怪しえ。磯
破の小冨士よまろむ。下津井の浦ええ
りさう。海中あり坂山石島あどとててころ
あそり。小島あそり。景色佳麗いそんくそり。
その目申の刻はとありふはさうぬまのな丸
龜の川口あぞとるりさう
室山山ふす
井二里より

新宮へゆく浦島よあそねども

のりあひせまうた丸龜の舟
おしり波干よあひて二丁なるり沖のくまねを
そめて。磯汐せまろ。け湊の舟あそり。さうも
難波ありとりり。あそり。川中よのり
入。ほひさき衝さそへハハ。大物屋とりる磯築を
よやがる。是ハ新宮の宅のう。案内よまろせま
さうりり。さう。あそり。あそり。あそり。

よりなる。

阿蘭陀絵 かえがが 阿蘭陀絵 あらんどうえ 全

右島年の土板をそのなまに極おのり
しりくふくしりしきとむゆらうか
しりくふくしりしきとむゆらうか
しりくふくしりしきとむゆらうか
しりくふくしりしきとむゆらうか

栄屋堂

續 藤栗巻物編上巻 本 麦

宮坂

